



震災ボランティア ＝神奈鍼の取組み＝

Q. 小川先生 最初に現地入りした時の感想は？

A. 東日本大震災が起きて約2か月後、平成23年5月に神奈鍼会員として初めてボランティアに参加しました。南三陸町の街並みは瓦礫の山であるで原子爆弾が投下された後の様相でした。町民の仮設住宅はまだ無く、それぞれ内陸の避難所にダンボールで仕切って布団を敷いて生活していました。その避難所へボランティア施術に行くと、ほとんどの方が自宅や家族を失い、身体ひとつで生き延びたかたが多くいました。それでもわざわざ神奈川県から来てくれたのといって歓迎してくれました。あれから2年以上が経過し現在、瓦礫は無くなり一面緑の草で覆われていましたが、仮設住宅に住んでいる方の心身はいまだ癒されていません。これからも鍼灸マッサージ師として、心身の痛みを緩和することを使命として継続していくことが大切だと強く思います。

学術部長 小川 真悟

Q. 朝日山先生 被災者の方々との交流は？

A. 震災直後の南三陸町の方々を、佐藤一先生の案内で栗原町の避難所で施術しました。陸前高田では地元ボランティアの大根プロジェクトの方々の案内で、さらには亘理町、山元町では消防署員鳴原さんの案内で現在に至っています。これらの方々に深く感謝しながら活動を続けています。

セラピー委員長 朝日山 一男

一瞬の時がすべてを破壊したこの大地に立ち
自然の力の大きさを改めて感じました



それでもこの土地を愛する人たちは歩みを止めようとはしないのです。

私たちは鍼灸マッサージのプロとして微力ながら健康回復と健康生活のお手伝いを続けさせていただくことでお役に立てればと思っています。みなさまがもう少し元気を取り戻すまで…

副会長 小沢 繁之



Q. 廣瀬先生、神奈鍼ボランティアに毎回欠かさずに参加する理由は？

A. 私が、毎回活動に参加するのは「同じ人間がなぜこうなるんだ？」という思いが1番で、自然と足が向いてしまいます。別に理屈なんてありません。大それたことはできませんが鍼、灸、マッサージの技術を持っていて良かったです。

藤沢師会 廣瀬 徹

◆赤坂プリンス・ボランティア活動を通じ感じた事◆

赤プリボランティアを通じ、一番印象に残ったこと。それは、被災者全ての人間力です。

『命があつただけでもありがたい！命さえあれば、家を失おうと、無一文になってしまってもやり直せる。』私が担当させて頂いた方の言葉でした。まだまだ、過酷な状況の中で避難生活されている方が、たくさんいる。自分のことよりその方達の事を心配されていました。助け合い！思いやり！今ある環境に感謝！仕事が出来る事に感謝！多くを学んだボランティア活動でした。

施術ボランティア 284名 受付ボランティア 53名
施術を受けられた方 1500名

ボランティア期間 2011.5.19～2011.6.28



がれきに咲いた水仙の花です。

現地開業者へのジレンマ



現地の同業者の業権擁護も配慮し必要以上の現地ボランティアは考えなくてはなりません。昨年度現地にボランティアに行かせてもらったときに、仮設住宅に近辺の開業者が週に1~2回程度来ていた事実がございました。現在、年に数回の神奈鍼でのボランティア活動がベストと思っています。

業務部長 梅田 勲

被災地ボランティア理事研修会

7月13日に実施された研修会における趣旨は、被災地の現状を見て頂きたいとの思いであり、それに全理事が賛同し、参加された事を感謝いたします。仮設住宅や名取市閑上(ゆりあげ)地区の悲惨な現状を見た時に感じた衝動が、心に何らかの変化を起こしています。この思いを希望へと転じていきましょう。

厚生部長 梅田 春樹



今月14日に私の集落に皆さんお出で下さいましてありがとうございました。当地区にお出で下さるということで急遽地区内4箇所の仮設住宅の方にも参加していただきました。多くの方が体が楽になったと申しておりました。また何時かお出でになる機会がございましたら、早めに周知したいと思っております。

今回はとても気持ちの良い体験をさせていただきました。

亘理町長瀬字大橋220 丸子忠志
皆さんお出でになってくれたところ 長瀬浜集落センター



7月14日宮城県亘理町にて仮設住宅でのボランティア活動をいたしました。狭い住まいの中で、明るく生活を送っている姿を見て感動をいたしました。私たちは3名で工業団地中央仮設集会所において19名の皆様の身体ケアをさせていただきました。身体は相当にお疲れの状態が見られます。今後とも地道なボランティア活動をしていきたいと思います。

会長代行 伊勢山 竹雄

被災者は今、
将来への不安を抱えながら
生活を送っています。



そんな中、皆様の支援が励みとなっております。
「マッサージが何よりも一番の楽しみ」という声も届いております。
これからも、未永い支援をお願い致します。

亘理町 鳴原

神奈鍼トピックス

壱岐良夫先生は74歳で鍼灸マッサージ免許を取得し、本年4月に神奈鍼横須賀・三浦師会に入会されました。この異色の新会員にインタビューしました。



Q1. 74歳で鍼灸マッサージ師になったのは？

A. 7年前に脳梗塞で入院し、自身の治療のためと同病者を救うため、漢方薬の勉強を始めました。ここで学ぶうちに鍼灸の有効性を感じ、横浜訓盲院に入学し本年3月卒業しました。

Q2. 神奈鍼入会を選択した理由は？

A. 本年2月国家試験に合格し、学校説明会に副会長小沢先生が来てくださったからです。

Q3. 前職はなんですか？

A. コンクリートメーカーの営業職です。日本中で橋の建設に携わりました。

壱岐良夫先生は、ご自身の病気をきっかけに漢方薬と鍼灸マッサージを学び、さらに将来東南アジアでもボランティアとして活動したいとのことです。

年齢を超えた若さとポジティブな生き方を見習いたいと感じました。

レポート：広報部 知久 京子

編集後記：本会報は発行140号を記念して震災ボランティア特集号とさせて頂きました。神奈鍼が取り組んでいるボランティア活動のほんの一部ですが、患者様方に本会の活動をご紹介して頂きたいたいと考えます。鍼灸マッサージ師として神奈鍼に所属することの誇りを感じて頂ければ幸いです。

社団法人 神奈川県鍼灸マッサージ師会

〒231-0065 神奈川県横浜市中区宮川町2-55 ルリエ横浜宮川町304

TEL. 045-242-7790 FAX. 045-242-7791 E-mail : kanasin@apricot.ocn.ne.jp